

* 1995年度採集観察会 *

* 第3回 10月15日(日) (雨天決行!)

場 所: 東京大学農学部 田無演習林

集 合: 西武池袋線「ひばりが丘」駅南口 10:00

→ @駅前にて昼食は購入できます。

西武バス ひばりが丘駅←(団地経由)→武蔵境駅 (路線番号 境04)

ひばりが丘駅←(団地経由)→田無駅 (路線番号 田43)

「六角地蔵尊前」下車、当地入り口は停留所のすぐ前。

「ひばりが丘」駅からは7~8分。

世話人・宮下 直 ☎0471-74-1612、笹岡文雄 ☎03-3918-1945

①ひばりが丘駅に集合が不便な方は、直接「田無演習林」入り口にてお待ち下さい。本隊は10:30頃までに到着する予定です。

②当地は東京大学の施設のため、11時までに入り口を施錠します。ただ施錠してあっても入場して構いません。また予め世話人まで到着時間をお知らせ頂ければ開錠します。

今後の予定: 第4回・1996年2月18日(日)

** 合同例会案内 **

日時 12月3日(日): 目黒区駒場住区センター 10:00~

京王井の頭線「駒場東大前」下車 (目黒区駒場2-22-4 ☎03-3469-2613)

講演と総会および懇親会 (多足類懇談会と合同)

→ 世話人: 平松毅久 ☎0492-33-8792

*同封のハガキにて出欠、近況(通信に掲載)を事務局平松まで

*** 第9回だんわ会「秘蔵クモ写真スライド映写会」 ***

日 時: 12月10日(日) 13:30~

場 所: 目黒区駒場住区センター (合同例会と同じ)

世話人: 笹岡文雄 ☎03-3918-1945

参加費: ¥500

写真公開と講演予定 新海栄一、高橋 登、伴 満

No. 86 締切は12月末日!

故八木沼健夫博士の追悼について

先の談話会通信でお知らせしました通り、KISHIDAIA 70号誌上にて故八木沼健夫博士の追悼を致します。個人的な既知の有無は問いません。みなさまの心の長けをお寄せ下さい。追悼文は一般投稿と同じ形式で、KISHIDAIA 担当木村までお願いします。

追悼文宛先 〒215 神奈川県川崎市麻生区東百合丘4-38-12 木村知之

★★ 日本蜘蛛学会第27回大会・総会開かる ★★

8月26-27日、福島県耶麻郡猪苗代町の東邦大学磐梯ロッジにて開催されました。2日間の内容は講演のみで、19件。またサントリー生物有機科学研究所長中嶋暉躬(なかほろみ)氏による「クモ毒さまざま」と題して、最近明らかになりつつあるクモ毒の成分とその作用について特別講演が行なわれました。クモ毒はハチやヘビのそれとはまったく違った他に例をみないものであるとのこと。

また総会において、近年の会員減少傾向について強い憂慮が表明されました。討議の結果普及委員会を置き、より一層の学会のピーアールと会員勧誘にあたることとなりました。

次大会は東京、次々大会は中部地方(詳細未定)にて開催されます。

野崎文江 「……観察会で感じたことを書きました」

百分は一見にしかず。日頃、クモの名前や種類を図鑑で調べることが多い私は、名前と実物とがあわないことが多く、判定がむずかしいなと思います。入会し、クモタケの調査、今年の7月の観察会と二回ですが、会の皆さんとの会話の中で、出会ったクモの種類や名前をたしかめることができました。図鑑や写真では、クモの一部分、行動や巣(網)のはり方も全部調べられないので、現場で実際にたしかめることが大切です。観察会の計画、採集場所の確保等々……談話会の世話人さんさんの御苦勞に負うことが多いと思います。初心者にとってはありがたいことです。目下、身近にいるジョロウグモの観察を一昨年から続けています。メスが卵のうを作る場面、子グモが卵のうから出てくる場面を観察することができました。また子グモを使った実験も試みました。今年は低温と長雨でメスの体の長さが(8月25日に測定した)1.5 cm、巾が3 mmとちいさいです。オスは8 mm、巾は2.5 mm。お見合いのシーズンに入ったのか、三組のペアができています。9月には交接のシーンも見られそうです。

会費は1年度で 一般¥2,800 学生¥2,000

茨城県土浦市でトサハエトリが採れた

池田博明

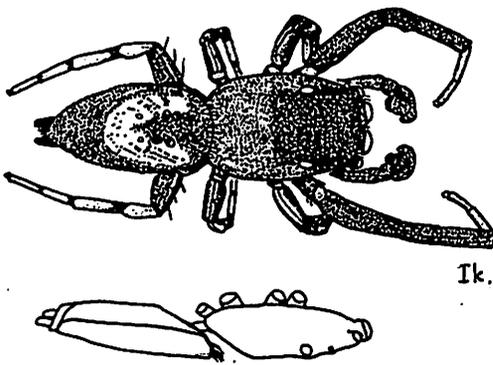
ポーランドのクモ学者ボーダノビッチとアルシンスキーが高知県の♂を正基準標本にして、1987年に記載して以来、日本では採れておらず、記載文に全形図がないため、いったいどんなクモなのかも、はっきりしなかったトサハエトリ *Tasa nipponica* BOHD. et PROSZ., 1987が、このほど茨城県土浦市で採れた。1995年6月24日に土浦市尖塚の斜面林の池のふちの草上で、工藤泰恵さんが採集した♂である。小さいハエトリグモなので、外見では種名がわからず、標本にして池田が同定した。中平清氏が1964年に採った標本3♂はすべてポーランドに行ってしまうので、現在これが日本にある唯一の標本で、日本では31年ぶり4頭目ということになる。

外見は一見、イナズマハエトリに似ているが、腹部背面にイナズマ模様がないし、背甲の縁に白線がない。小さくて背甲がこげ茶色なのでチビクロハエトリの一種と思う人もいるかもしれない。全体に上から押しつぶしたかのように平たい。ボーダノビッチとアルシンスキーはシェンケルが1963年に中国の標本で記載した *Breda davidi* と比較して新種という結論を出している。イナズマハエトリの旧属名が *Breda* であった歴史を知っている人は、なるほど似ているのだろうと推測できるだろう。

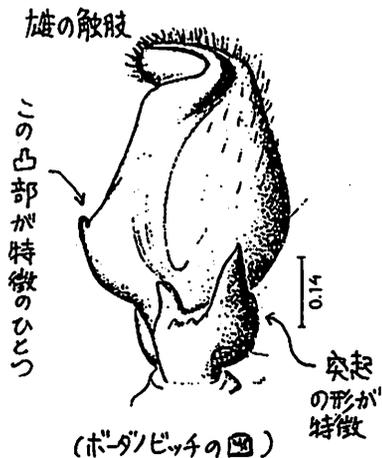
Wesolowskaが1981年に立てたこの *Tasa* 属は、現在までに2種しか記載されていない。ひとつはトサハエトリ、もうひとつはシェンケルが記載し、ウェソロウスカが転属した前種 *Tasa davidi* (SCHENKEL, 1963) である。♂の触肢がかなり特徴的である。2種とも♀は知られていないので、もし♀が見つかったら大発見である。

アルシンスキーらによると、本属の分類上の位置は未確定で、ヤマジハエトリ (*Aelurillus*) 属にもやや似ているが、そうでもないという。

模様のはっきりしないイナズマハエトリらしき標本には要注意である。



(池田原図)



(ボーダノビッチの図)

八月五日午前六時半、私は川越のアパートを出た。関東地方は連日猛暑であったが、この日も暑くなりそうだった。さぞかし高知も暑かろうと思いながら羽田空港へ向かう。ついに高知合宿の日がやってきたと思うと感無量であった。三年前S氏と高知を訪れ、地元の中平先生宅へお邪魔した際冗談で出た話がいつの間にか本当になってしまったのだから恐ろしい。それもこれもS氏のマインドコントロールのせいという気がしないでもないが、私が学生時代を過ごした高知への思い入れも要因の一つかもしれない。

航空会社から認定こそされなかったものの、ほとんど団体の一行17名はバタバタしながらも何とか搭乗手続きを終え（この間ニュースキャスターの桜井良子女史がスタッフとはぐれたらしく右往左往していたのには笑ってしまった）、10時45分発の飛行機に乗り込んだ。機は一時間余りで高知に到着、私と唯一大型免許を持つ貞元氏は送迎バスで宿へ向かう他の人々と分かれ、空港近くで小型バスを借りて後を追った。宿には我々一行以外にもぼつぼつ参加者の方々が来られていた。昼食後大半は龍河洞観光へ、私は金野氏、畑守女史と三人で下見に行くことになった。場所柄直前の下見ができなかったためである。結局五時半までかかったがこれはという場所を見付けられず運を天に任す事にした。

夕食後宿の近くで夜間採集を行った。とにかく蒸し暑い上に目に付くクモは普通種ばかりで、ワキグロサツマノミダマシなど佃煮にできそうな程いた。周りからも「ろくなのがない」という声が漏れ聞こえて来る。私は教団（談話会）のポワを恐れ、某清涼飲料水のCMをもじって『♪今日もみんなに怒られた。好きなクモには逃げられた。宿帰って酒呑んではよ寝たろ♪』と、半ばふてくされながら宿へ戻った。しかしプロ揃いの談話会は見るところが違っていた。クモ合わせの途中、遅れてきた加藤むつみさんを金野氏と迎えに行き戻って見たら、貞元氏のムツトゲを筆頭にそこそこの成果があったことがわかりホッとした。翌日に備えてこの夜の反省会？は12時過ぎで打ち止めとした。

次の朝も素晴らしい天気にも恵まれ、クマゼミの大合唱に励まされいざ出陣、車で15分程の夜須川の集落で採集を始めた。いわゆる里山ふうのどかな田園地帯でトリフンぐらいはでそうだというのが前日下見をしたときの感想であった。いきなり高校生の水野君がムツトゲを発見、夜投げ縄行動の観察のため採らずに置いておくことにする。採集も終りに近づいた頃、嬉しい事があった。挨拶を交わしていた近くの農家の方が、奥さんと軽トラックに乗ってわざわざ缶ジュースを買って持ってきて下さったのである（しかも足りない分まで買い足して）。大挙して畑を（結果的に）荒らしているよそ者に心遣いをいただいて一同感謝の言葉もなかった。

昼食後は疲れている人のこと（自分だけ？）を考えて自由行動にする。有志は車で安芸市方面へ、トクテ組は高知市内へ、あとは近くでプラプラ組に大別されたが、私は雲見合宿以来三年ぶりに泳ぐことにした。人も手頃ですっかりリフレッシュできたが、後日なぜ

か左手首だけに火ぶくれができ、記念のタトゥーならぬやけどの跡が残った。泳いだ後風呂上がりにはビールを呑んでいると、帰ってきていた安芸組から「マメイタが採れたよ」と教えられた。雌だけかと思いきや塩崎氏が雄を採られたという。しかも二頭も！ちなみにマメイタイセキグモの雄は世界初記録だそうで、雌をかなり小型にしたその「雄姿」に見とれてしまった。塩崎さんおめでとうございます。そして夕食の時高知組から苦勞の探索の末、キシノウエトタテが高知城で発見されたことが知らされ（これは高知県初記録）、有意義な自由行動となったようだ。

夜間採集は少し遠出をしたが収穫はスズミぐらいで、ムツトゲの投げ縄を見に午前中の場所へと移動。残念ながらムツトゲ君はライトで照らされたせいか、大勢のギャラリーを前に緊張したのか、投げ縄の妙技を披露してくれなかったが、求愛中のオオトリノフンダマシ、路傍の草間にはシロオビトリノフンダマシが見られトリフンの宝庫の感があった。宿へ帰ってこの日一日のクモ合わせをしたが、マメイタの他にもコケオニグモ s p.（新海栄一氏採）、ヨツコブヒメグモ、ニセンヒメグモ、シマササグモ、アシプトハエトリといった珍品や関東ではあまり記録のないものの名が挙がり、合宿最後の夜は盛り上がっていった。

ついに高知を去る日が来た。最後まで好天に恵まれ、雨男の汚名を晴らすことができたのは何よりであったが、そこにツキを使い果たしたのかクモの方は殆どオケラである。最後の採集地は龍河洞へ行く途中にある野市町大谷である。途中のバス停で中平先生が降りて帰られることになった。ご高齢にもかかわらず採集や夜の会にも遅くまでお付き合い下さったが、その飽くなき探求心と鋭い観察眼は我々の良き手本である。これからもお元気で活躍されることを心よりご祈念申し上げます。さて野市ではとくにこれといった収穫はなかったようだが、私は関東ではあまりお目にかかれない大きなコガネグモと対面がかない嬉しかった。私事で恐縮だが、大学で研究材料に使っていたせいかこのクモには愛着が深く、食べてしまいたくなるほど可愛い（というのは冗談だが）。

集合時間になったので一旦宿へ戻ることになったが、この時ちょっとしたハプニングが起こった。伴さんを置き去りにしてきたのである。実は車内で「そういえば伴さんは？」という声が上がったにもかかわらず、レンタカーの返却時間に気をとられた私が後続車に乗っているだろうと見切り発車したために起こったもので、完全な確認ミスであった。幸い大事には至らなかったが、伴さんや捜索に出向いていただいた方々には本当にご迷惑をおかけしました。ただ今後このような事のないよう集合時間は厳守でお願いします。

こうしてアッという間に合宿は終わったが、参加者の方が満足されたとすればそれはいわば「高知のおかげ」であり、ご不満の点があればそれは世話人の私が至らなかったせいだと思っている。不手際をお詫びすると共にとにかく無事合宿を終えられたのも参加者各位のご協力の賜物と感謝致します。どうもありがとうございました。

付記：中平先生よりご高著「続・くものふるまい」「私と生きものたち」を代金は談話会に寄付の形で五冊ずつご提供下さいました。この場を借りて御礼申し上げます。

ユズ畑のナゲナワグモたち

新海 明

合宿の中日であった8月6日の午後は、夏の暑さを考えて自由行動となった。手結（てい）の浜に泳ぎに行く人、宿舍の海風荘で休息をとる人、さまざまに南国の午後のひとときを楽しんだようだ。

私はというと、珍しく東京クモ談話会の精鋭部隊である新海栄一・貞元・高橋氏らと共に、夜須町よりさらに足を延ばして安芸市への採集行に加わった。安芸市は古き良き時代の日本の農村の面影を色濃く残していた。三菱財閥の岩崎弥太郎生家や最近JRのポスターで馴染みとなった野良時計などの名所も散在していた。街路に沿って流れる水路の水は清々としていて、思わず裸足になって踏み入れたいような衝動に駆られるほどだった。

川沿いのユズ畑の近傍に車を止めると、そこは見るからに「匂う」場所であった。「さすがに良い所を選ぶな」と感心した。私は付近を見回して対岸のユズ畑へ真っすぐに向かった。車道沿いのユズ畑は良く整備されていたし、農薬がまかれていてダメだと判断したからだ。堰を横切りユズ畑に抜けると早速、アカイロトリノフンダマシとトリノフンダマシの♀♀が見つかった。これは絶対にナゲナワグモがいると確信させられ、放棄されたユズ畑をさらに分け入っていった。それから1時間半ほども探しただろうか。しかし、いっこうにナゲナワグモは見つからなかった。仕方なくあきらめて川へ戻り、日陰で涼をとりながら集合時間を待つことにした。川面を渡る風を感じ周囲の山々の青さを眺めるうちに、時の流れが一瞬止まりつい一昨日まで都会で過ごしていた生活が遠い昔の世界になったような錯覚に陥った。やがて、集合時間がせまり車のそばに収穫品をみせあう人の集まりができていった。そこへ、塩崎さんが戻ってきた。「ちょっといいものが採れましたよ」と管ピンを差し出した。その瞬間「あっ」と思った。その中には大きなマメイタイセキグモがいたのだった。「オスもいますよ」と塩崎さん。あと2頭も兄がとったとのこと。一同、帰りの時間も忘れてマメイタイのいた車道沿いのユズ畑へ向かった。ここは「いない」と私が思った場所だった。ユズの葉には点々と農薬散布の跡が残っていた。なのに、マメイタイの♀3、♂1、そしてムツトゲの♀1がその葉の裏にとまっていたのだった。結局、その後それ以上は採集することはできなかったが、帰りの道すがら安芸市のユズ畑を車の窓からぼんやりと眺めていると「ここにも、あそこにも」ナゲナワグモが潜んでいるような気にさせられたものである。

「高知県で合宿をしましょう」と無責任にも中平先生とお約束したのは1992年春のことだった。そんな夢が実現したのは偏にこの合宿を企画し、お世話していただいた平松毅久さんのお陰である。また、中平清先生には暑い中を参加して下さり色々有益なお話を伺うことができた。ここに改めて御礼申し上げたい。

*新村 誠

1月に入会して初めての合宿参加。クモのドシロウトとしては、やや不安を持ちながら羽田へ向いました。まだ顔と名前を覚えてもらっていないので平松さん、笹岡さんを探すのに必死でした。そんな苦勞も一瞬で、初めてのクモ浸りの3日間。マメイタ、ムツトゲ、スズミ等々の珍品に、トリフンのオンパレードとピギナーには眼が眩むような時間を過ごせました。自然観察主体の森林インストラクターをしているので、採集よりは生態に興味がありますが、まずは「クモ基本50」のマスターを目指しています。新海明さんにへばりついて色々教えて頂き、実に収穫の多い合宿でした。夜の部で多くの方と知り合えたことも嬉しく、これからが楽しみです。50の手習いを始めた新米ですが、これからもよろしくご指導ください。

*長井芳夫

トニカク暑かった！ 3日間の猛暑、印象に残りました。

解散の時の、笹岡さんの投稿を促す切なる言葉に感じて筆をとりました。平松さんを初め皆さんの行き届いたお世話に心から感謝いたしております。加齢と共に、自身の体を自由にコントロールすることが出来なくなりつつあります。今回もどうやら無事に帰還できました。ホットしたところですが、普段見る機会の少ない珍しい種類のクモが、皆さんの発見によって続々みられました。ムツトゲイセキグモ、マメイタイセキグモその他トリフンのいろいろ。特に驚いたのは新海栄一さんにみせられたコケオニグモでした。コケという言葉からの先入観でしたでしょうか、小さなものとはばかり思っていたのが「アッ」といって二の句がつけませんでした。

佐藤学校（佐藤幸子校長）の同窓生が何人も今回の合宿にも参加しましたが、同窓生の一人の中嶋さんが参加できなかったのは残念でした。珍しい種類を是非一緒に観察したかったと思います。

今回の国民宿舍の施設、サービスもとても良かったと同室の方々とも話し合ったことでした。常日頃から、会合のおり先輩の皆様から頂く懇切なご指導と暖かい雰囲気。未知の所へ気軽に連れて行って頂けるメリット。東京蜘蛛談話会に参加させていただいたことに仲間と共に感謝しております。そく聞するところによると、沖縄での合宿も話題に昇っているとのこと、もし我が身が許せば是非参加したいものです。今回は皆様いろいろお世話になりました。有難うございました！

*工藤泰恵

今回の合宿で一番うれしかったのは中平先生にお目にかかれた事です。御本の出版の時のお話、岸田久吉先生との思い出、更には観察途上にベニバラボロギクをお手づから摘んで下さいました。（家に持ち帰って茹でて食べたら、ホロ苦さと緑の香りがミックスしてとてもおいしかったです）

又、私がヒザブトヒメグモを見たことがない、と申し上げたらわざわざ暗い中さがして来て「これですよ」と住居ごと下さったこと等々、なんとも恐れ多くて、有難くて先生のやさしさが身にしみてうれしかった旅でした。

*泉 宏子

今まで出会ったことのない珍しいクモ達にたくさん会えて、わくわくし通してました。イカの泳ぐ海で着衣水泳をした時は、最高の気分でした。たいへん充実した3日間でした。

*加藤むつみ

今回の合宿において、大川さんより教えていただいたクモの摂餌方法は、トゲグモにおいて大変有効である事がわかりました。彼等が好むエサが手に入るならという条件付きですが今年の合宿より、一年越しで心に引掛かり続けたトゲグモの飼育が、大きく可能性を広げた気がします。塩崎さんより元気なトゲグモも届き、しばらくは真剣に彼等を観てみるつもりです。

*第2回 1995年7月9日 (日) 曇

参加者(50音順、敬称略): 阿部たい子、池田博明、泉 宏子、梅田泰圭、梅林 力、緒方 和、小川敦央、尾口治子、柿沼智子、笠原喜久雄、加藤ななえ、加藤晴弘、加藤むつみ、木村知之、工藤泰恵、小峰光弘、笹岡文雄、佐藤幸子、清水紀子、鈴木茂生、竹崎靖一、谷川明雄、千田高史、永井 隆、中島晴子、中野隆雄、浪波徳義、新村 誠、野崎文江、伴 満、平井正子、平松毅久、宮下 直、山仲毅子、山仲芳和、山本昭六、~~ホド・ハズ・ツツ~~(望人・助主・士琳具) 以上37名

*トタテグモ科 キシノウエトタテy *ジグモ科 ジグモFy
*ウズグモ科 マネキグモF カタハリウズグモF
*ユウレイグモ科 ユウレイグモF
*ヒメグモ科 ツリガネヒメグモF キヒメグモFM y カグヤヒメグモFM ヒメグモfmy
コンビラヒメグモFM オオツリガネヒメグモF オオヒメグモF オナガグモFMe
フタオイソウロウグモy バラギヒメグモFMe ムナボシヒメグモFe
*サラグモ科 アトグロアカムネグモF タテヤマテナガグモM ハラジロムナキグモF
ハリジロサラグモF クロケシグモM チビアカサラグモF
*コガネグモ科 ハツリグモM アオオニグモFM マルツメオニグモF オニグモfy
カラオニグモf ナガコガネグモy コガタコガネグモfm ヤマトカナエグモFMe
ギンメッキゴミグモy ゴミグモFye オノゴミグモFye ヨツデゴミグモFye
トリノフンダマシf オオトリノフンダマシf トリノフンダマシsp. m
シロスジショウジョウグモy ワキグロサツマノミダマシy ヤマシロオニグモy
サツマノミダマシf ジョロウグモy カラフトオニグモy
*アシナガグモ科 コシロカネグモFM キララシロカネグモFM ウロコアシナガグモf
*ヒラタグモ科 ヒラタグモF
*タナグモ科 クサグモy コクサグモy メガネヤチグモf
*キシダグモ科 イオウイロハシリグモy アズマキシダグモm
*コモリグモ科 エピチャコモリFM ウヅキコモリm ハリゲコモリFMe チビコモリFMe
コガタコモリFM コモリsp. y *ササグモ科 ササグモFM
*フクログモ科 ヒメフクログモM フクログモsp. y ウラシマグモF ヤバネウラシマグモF
*イツツグモ科 イツツグモy シボグモ科 シボグモM
*エビグモ科 キンイロエビグモF キハダエビグモFe アサヒエビグモFy シヤコグモF
*カニグモ科 キハダカニグモF コカニグモf ハナグモFe コハナグモf
ワカバグモfy アズチグモf セマルトラフカニグモFM ヤバネカニグモFMe 材ヤバネカニグモF
*ハエトリグモ科 ネコハエトリF マミジロハエトリFM ウデプトハエトリF
キレワハエトリFM エキスハエトリF ヤハズハエトリM ヨダンハエトリFM
ヤサアリグモf チャイロアサヒハエトリFM メガネアサヒハエトリF
マガネアサヒハエトリM カラスハエトリFM y アオオビハエトリFM 計88種

略号 F(♀成体) M(♂成体) f(♀幼体) m(♂幼体) y(性別不明幼体) e(卵)

*尚、不明種(sp.)の幼体は集計数に含んでいません。また5/14にオオトリノフンダマシのカラの卵囊の報告がありましたが集計からは外してあります。

担当: 宮下、笹岡(集計・笹岡)

会員移動

(入会)

- 新村 誠：〒216 神奈川県川崎市宮前区有馬5-18-10-401
宮本 美織：〒237 神奈川県横須賀市湘南鷹取1-32-11
佐々木智雄：〒020 岩手県盛岡市山岸2-7-16ハイム山岸203
小池 麻美：〒156 東京都世田谷区赤堤1-42-18A307
加藤ななえ：〒187 東京都小平市上水南町1-30-10
小笠原幸恵：〒456 愛知県名古屋市熱田区五本町2-21
吉澤 美香：〒230 神奈川県横浜市鶴見区馬場7-30-1インペリアル菊名113
緒方 和：〒275 千葉県習志野市本大久保1-3-13-101
柿沼 智子：〒281 千葉県千葉市花見川区こてはし台5-5-9
水野 陽介：〒236 神奈川県横浜市金沢区釜利谷西6-23-15
韭沢 幸世：〒250 神奈川県小田原市栢山3573-142
尾口 治子：〒188 東京都田無市西原町3-7C425
浪波 徳義：〒197 東京都福生市熊川592第一吉田荘101号
松田 浩二：〒305 茨城県つくば市要50-1

(住所変更等)

- 井原 庸：〒731-01 広島県広島市安佐南区八木7-15-21
井上 尚武：〒312 茨城県ひたちなか市高野185-97 (勝田市より地名変更)
海老原憲昭：〒312 茨城県ひたちなか市松戸町1-6-1 (同上)
大熊千代子：〒812 福岡県博多区千代5-1-4-434
高津 佳史：〒270-11 千葉県我孫子市久寺家1-4-7西村様方
畑守 有紀：〒567 大阪府茨木市水尾2丁目2-20-1水尾ハイツ2F24号
宮下 直：〒112 東京都文京区弥生1-1-1東京大学大学院農学生命科学研究科
野生動物システム学教室 (所属変更)
佐藤 幸子：〒233→234 (郵便番号変更)
織茂 尚子：〒233→234 (郵便番号変更)
田副 幸子：〒233→234 (郵便番号変更)
梅田 泰圭：〒120 東京都足立区東和5-3-30エクセレント美希302
秋山亜由子：〒155 東京都世田谷区北沢1-28-19アルス下北沢502号室
佐藤様方
井野 文雄：〒203 東京都東久留米市滝山2-5-3-304

(退会)

- 佐藤 邦人, 小滝 一孝, 天野 和明, 天野 清子, 高山 晃一, 水沢 正明 (以上希望)
岡村 宏, 関下 俊英, 梶元 敏也, 元西 孝嗣 (以上規約), 八木沼健夫 (逝去)

事務局・会計は 平松毅久 〒350埼玉県川越市上戸91-3 瀬尾荘202

『会費受領』 1995年 1月中旬～1995年 8月下旬 (敬称略)

1993年度

甲守 崇H080, 八幡 明彦H112, 小滝 一孝H147, 大久保 H148, 高山 晃一I001
宮園真理子I004, 宮園あがさI005

1994年度

近藤 昭夫H079, 甲守 崇H080, 小澤 實樹H081, 早乙女 薫H083, 細田みどりH084
佐藤 邦人H090, 宮下 直H093, 大石 洋人H095, 嶋田 順一H098, 高田 勝H099
大野 正男H105, 笠原須磨生H107, 塩崎 哲哉H108, 河又 和夫H110, 八幡 明彦H112
吉田 真H133, 萱島 志門H139, 工藤 泰恵D025, 小滝 一孝H147, 大久保 H148
高山 晃一I001, 宮園真理子I004, 宮園あがさI005, 寺西 玉実I018, 伊藤 研I031
宮島 仁I032, 稲垣 成二D017

1995年度

徳本 洋H075, 藤井 靖浩H076, 宮崎 和代H077, 緒方 清人H078, 近藤 昭夫H079
小澤 實樹H081, 伴 満H082, 早乙女 薫H083, 芦田 喜治H085, 長島 忠義H086
新村 誠H087, 有田 立身H088, 板倉 泰弘H089, 高津 佳史H091, 小峰 光弘H092
宮下 直H093, 増原 啓一H094, 大石 洋人H095, 増原 啓一H094, 大石 洋人H095
畑守 有紀H096, 宮本 美織H097, 嶋田 順一H098, 高田 勝H099, 菊屋奈良義H100
井上 尚武H101, 権田 重雄H102, 小川 敦央H103, 和仁 道大H104, 大野 正男H105
林 聡彦H106, 笠原須磨生H107, 塩崎 哲哉H108, 石川みどりH109, 大川 秀治H111
八幡 明彦H112, 横山 和正H113, 大熊千代子H114, 朝倉 幹晴H115, 加村 隆英H117
立川 晴二H118, 佐々木智雄H119, 吉倉 真H120, 八木沼健夫H121, 東條 清H122,
生山 健H123, 佐久間良三H124, 小池 麻美H125, 千国安之輔H126, 小野 展嗣H127
谷川 明男H128, 大久保光将H129, 守 桂子H130, 永井 均H132, 吉田 真H133
初芝 伸吾H134, 佐々木健志H135, 甲守 崇H136, 菅沼 洋平H137, 福島 彬人H138
木村 正明H141, 佐藤 和昭H142, 古川 渉H143, 諏訪 哲夫H145, 工藤 泰恵D025
泉 宏子D026, 中野 隆雄D027, 笠原喜久雄D028, 加藤ななえH146, 池田 泉H149
池田 千洋H150, 野嶋 宏一H151, 田副 幸子I002, 及川 照代I003, 宮園真理子I004
宮園あがさI005, 小笠原幸恵I006, 浜口 哲一I007, 西尾三枝子I008, 田中 徳久I010
秋山亜由子I011, 吉澤 美香I012, 浜岡 史子I013, 萩本 房枝G002, 古浜 隆G003
緒方 和G005, 柿沼 智子G006, 梅田 泰圭G007, 加藤輝代子G008, 新海 明G009
赤羽 尚夫I014, 神田 登I015, 前川 隆敏I017, 水野 陽介D011, 千田 高史D012
寺西 玉実I018, 貝堯 憲治I019, 高橋 登I020, 山川 守I021, 阿部代始子D013
韭沢 幸世I023, 中平 清I024, 尾口 治子I025, 蓮沼 克己I027, 桑川 和子I028
濱田 龍一I029, 井野 文雄I030, 伊藤 研I031, 浪波 徳義D015, 松田 浩二D016
稲垣 成二D017, 荒金 泰子I034, 入江 照男D018

郵便振込口座番号 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会

1996年度

宮崎 和代H077, 小澤 實樹H081, 大石 洋人H095, 嶋田 順一H098, 菊屋奈良義H100
 梶田 重雄H102, 大熊千代子H114, 千国安之輔H126, 小野 展嗣H127, 木村 知之H131
 甲守 崇H136, 坂寄 廣H140, 加藤むつみH144, 笠原喜久雄D028, 宮園真理子I004
 宮園あがさI005, 浜口 哲一I007, 後藤 好正I009, 浜岡 史子I013, 萩本 房枝G002
 松本 誠治G004, 佐藤 幸子G010, 神田 登I015, 北島 博I016, 高橋 登I020
 山本 一博I022, 蓮沼 克己I027, 中島 晴子D014, 小川 新哉I033, 稲垣 成二D017

1997年度

嶋田 順一H098, 菊屋奈良義H100, 石野山辰夫H116, 小野 展嗣H127, 甲守 崇H136
 坂寄 廣H140, 笠原喜久雄D028, 浜岡 史子I013, 梅林 力G001, 松本 誠治G004
 大石 洋人I026, 蓮沼 克己I027, 稲垣 成二D017

1998年度

嶋田 順一H098, 石野山辰夫H116, 甲守 崇H136, 松本 誠治G004, 大石 洋人I026
 蓮沼 克己I027, 稲垣 成二D017

1999年度

甲守 崇H136

2002年度

原 勝司H152

2003年度

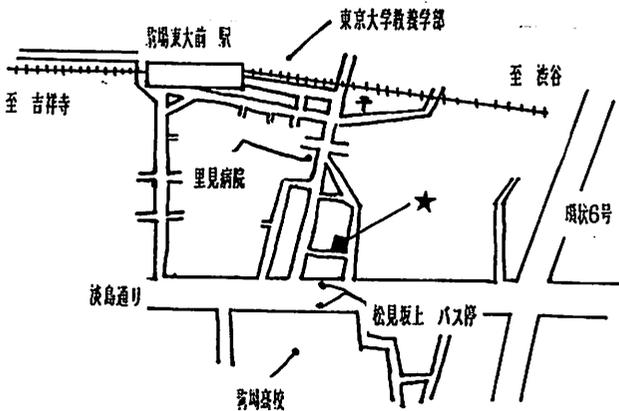
原 勝司H152

寄付

中平 清 (12000 円), 笠原喜久雄, 浜岡 史子, 大石 洋人 (16000円), 後藤 好正 (1000円), 谷川 明男 (550 円), 石野山辰夫 (400 円), 阿部 代始子, 中島 晴子 入江 照男 (200 円)

☞ 会費の問い合わせには受付番号 (H000) を明記して下さい。
 H, I は振り込み, G は現金で直接いただいた事を示します。

目黒区立駒場住区センター



ハガキの書き方

150 350 川越市上戸9153
 平松 教久 行

表

裏

・住所・氏名
 ・合同例会に
 (出欠)します。
 ・講演(有・無)
 演題 _____
 ・近況 _____

WANTED

求む研究用標本

谷川明男

コガネグモ科のクモ類の研究をしています。標本が不足していて困っているものがあります。次にあげるものでご恵与いただける標本がありましたら、ぜひともよろしくお願い致します。研究終了後は国立科学博物館に保管させていただき、私蔵はいたしません。なお、多数入手することのできた種については、博物館保存用以外の標本は返却いたします。また、研究用に必要な標本がありましたらお知らせ下さい。可能な限り差し上げます。

連絡先：248 鎌倉市七里ガ浜東 2-3-1

県立七里ガ浜高等学校

谷川明男

不足している標本

- | | |
|---------------------|----------------|
| オニグモ♂ | アカイトリノフンダマシ♂ |
| ヤエンオニグモ♀♂ | ヤマキレアミグモ♀♂ |
| ヤマオニグモ♂ | ゴマジロオニグモ♀♂ |
| ヤミイロオニグモとその近似種♀♂ | マメイタイセキグモ♀♂ |
| コウモリオニグモ♂ | ムツトゲイセキグモ♀♂ |
| アカアシオニグモ♀♂ | サカグチトリノフンダマシ♀♂ |
| マメオニグモのなかま | ツシマトリノフンダマシ♀♂ |
| (数種いるようです) ♀♂ | ワクドツキジグモ♀♂ |
| コケオニグモ (緑色のオニグモ) ♀♂ | コオニグモモドキ♂ |
| ツノオニグモ♀ | ナガテオニグモ♂ |
| オオスミコガネグモ♂ | サガオニグモ♂ |
| ソメワケトリノフンダマシ♀♂ | キンカタハリオニグモ♂ |
| クロトリノフンダマシ♂ | |

WANTED

各地のハエトリグモの標本を借用させて下さい

池田博明 〒258 神奈川県足柄上郡大井町金手1099

TEL. & FAX. 0465-82-2105

日本のハエトリグモの分類を手がけていますが、標本が不足しています。例えばごくありふれた種のマミジロハエトリにも個体変異と別種が紛れこんでいます。目下、検討中ですのでお手持ちの標本を再検討させて下さい。標本の返却を希望される方にはお返しします。なお、他の既知種でも分布を調べておりますので、拜見させていただけると助かります。送料は標本の札状に同封させていただきます。当面の課題は次の種および属です。

- ①Harmochirus属とBianor属 ②Marpissa属 ③Evarcha属
④Helicius属 ⑤Heliophanus属 ⑥Sitticus属 ⑦Pseudicius属
⑧Phintela属 ⑨未知属

年月日不詳



●イラスト：後園一之

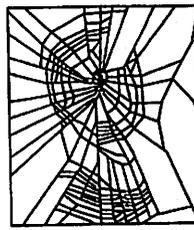
クモの知恵に驚く 生々
 もの地球旅行「オーストラ
 リアの森・クモが紡ぐ美し
 いワナ」(11月28日、NH
 K)に、目を釘刺る。網を
 張って獲物を待つだけでな
 く、技藝を打ちよせした
 り、糸を投げ縄のように投
 げたり、土の穴に擬装のふ
 たをして通る虫を捕えたり。
 クモの知恵と技術に驚
 いた。珍しい映像が自然へ
 の関心を深めてくれた。(府
 中市・宮沢 徹・67歳)

'94.12.9

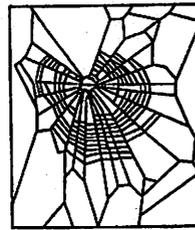
山川 守さん提供

薬物投与されたクモ 巢に出る「精神状態」

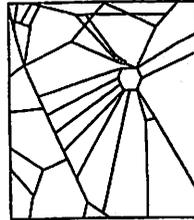
めぢめぢになつた網の目
が、そのまま薬物の怖さを物語



覚せい剤



マリファナ



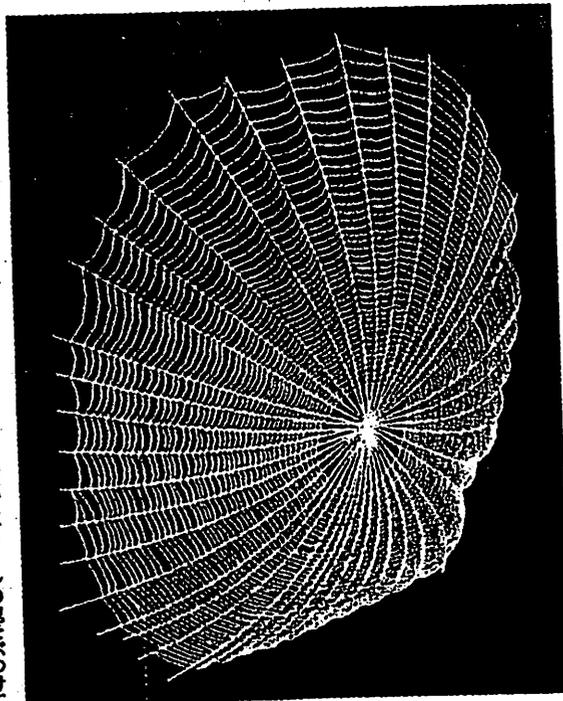
抱水クロラール

る—英科学誌ニューサイエン
ティストにもある、いろいろな
薬物を与えたクモの巣を比較し
て違いを見分けることに、米
航空宇宙局(NASA)マーシ
ャル宇宙飛行センターのグルー
プが成功した。毒性の試験に使
えそうという。
マリファナを与えたクモは、
巣の中心から外へ向かう「

朝日新聞(夕)'95.5.8 →
梅林 力、水野陽介さん提供

と極気を失つた様子で、中途半
端な網の目になった。覚せい剤
の場合は、耐毒性がなく大きな
穴があちこちに開いた。睡眠薬
の成分になる抱水クロラール
は、すくなくともこうしたよう
で、ほとんどの網の目にならな
った(図、NASA資料から作
成)。(ロン・マン＝岡岡 章)

強いクモの巣、カギは横糸



膨らんだカサのように見える
のは、風をほらんだクモの巣。
英オックスフォード大のロレイ
ン・H・リンさんがコンピュ
ーターで描いた(写真、リンさ
ん提供)。狙いは、クモの巣がな
ぜ、高速で飛んで来る虫を受け
止めてもこわれぬのか、とい
う疑問の解明。最近、結果を英
科学誌ネイチャーに発表した。

まずヨーロッパに多い、ニフオ
ニフモをモデルに、数値実験し
た。コンピューター上の計算
で、「巣」に物体をぶつけた
時、巣の受ける空気抵抗が、振
動の減衰に大きな役割を果たし
ているとの結果を得た。
次に実験室にクモの巣を張ら
せ、実際に確かめた。巣の横糸
を切り、放射状の縦糸を残して

弱抱水クロールの塊をぶつけて
みたところ、振動は横糸がある
場合の二倍程度長く続いた。横
糸が空気抵抗による減衰の大半
を担い、縦糸については粘液
も一役かっているという。
構造設計が専門のリンさんは
「こつした字サインは、建築に
も生かせる」と話している。
(ロン・マン＝岡岡 章)

サンケイ新聞'79.6.8
梅林 力さん提供 →

朝日新聞(夕)'95.4.26
梅林 力、新海 明さん提供

クモの毒に注目

脳の機能解明へ手掛かり

運動神経のグルタミン酸の働き遮断

クモの毒が医学や薬学の研究者たちの関心を集めている。クモは、網にかかった昆虫にかみついて体をまみさせる。虫の筋肉に命を伝える運動神経のグルタミン酸の働きをクモ毒が遮断してしまうからだ。この仕組みの解明は、実は十年ほど前のことだ。このユニークなクモ毒に着目し、薬への応用を目指す研究が進んでいる。神経の病気の特效薬や、脳の機能を調へる手掛かりになるといふ。

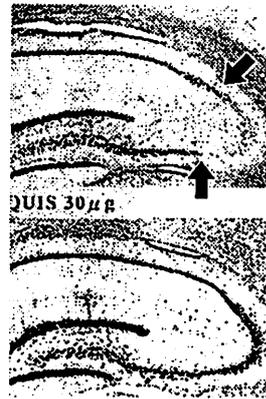
クモ毒の研究の対象となったのはシヨロウクモ。黒と黄のしま模様鮮やかな、どこにでもいるクモだ。この毒の分子構造を突き止めた川合述史・自治医科大学と中嶋暁躬・サントリ生物有機科学研究所長は、一九九四年度の日本学士院賞の受賞が決まっている。

川合教授によれば、クモ毒に取り組んだのは全くの偶然。「もともとスズメバチの毒を研究していた。あるとき、スズメバチの採集に行ったのに、巣が見つからない。手ぶらで戻る

医薬品・農薬に応用も

のも悔しいから、たまたま自についたシヨロウクモを捕まえて帰ったのがきっかけです」ところが、イセエビを使った実験から、このシヨロウクモの毒が、グルタミン酸による情報伝達を止める新しい物質と分かった。そこで化学構造を確かめるため、まとまった量の毒が必要になった。しかし、クモの毒は一匹当たり千分の二にも満たない。

クモ毒を集めるに苦労した。「最初は、自分で静岡県などで採って歩いたが、とても間に合わない。農閑期の農家に採集を頼み、一匹十円で買ったりした」と川合教授。三年がかりで二万匹を集めた。当時東大薬学部教授の中嶋所長の研究室に持ち込み、一九八六年に分子構造が分かった。



化学物質を注入したラットの脳を輪切りにすると、部分的に脳細胞が死んでいる(矢印から矢印までの白い部分)。事前にクモ毒を加えていると細胞は死なず、下の写真のように黒いままに加齢退色・遊逸大助教授提供

期待をかける。たとえば、脳卒中が起きると、グルタミン酸が脳細胞から大量に出て、脳細胞が死んでしまう。そこで、グルタミン酸を遮断する改良が必要だといふ。理化学研究所の伊藤正男・国際フロンティア研究システム長らは、クモ毒を小脳の研究に利用している。

クモ毒を上手に生かせば、細胞は死なず記憶障害などの後遺症を予防できるはず」といふ。すでに遊逸大の加齢退色・助教授らは、ある種のてんかんがクモ毒で抑えられることを、ラットを使った動物実験で確かめた。ラットの脳を刺激する化学物質を注入すると、てんかんに似た発作が起き、やがて脳細胞は死んでしまう。ところが、脳にクモ毒を入れておくと、発作は起こらず細胞も死なない。発作の原因となる脳細胞

の興奮を、クモ毒が止めてくれるらしいといふ。しかし、薬として応用できるまでには、まだ大きな難問がある。脳の血管から脳細胞には、ブドウ糖など限られた物質しか通らないからだ。体が生まれつき持っている巧妙な仕組みだ。クモ毒の化学構造を手直しして、この関門をくぐり抜けさせる改良が必要だといふ。

運動を調節する小脳では、グルタミン酸が細胞から細胞へ情報を伝える。同じ運動を繰り返すと、グルタミン酸の伝わり方が変わり動作が滑らかになるといふ。そこでクモ毒を与えてグルタミン酸の流れを止めると、動物の運動がどう変わるのか。練習でスポーツ機能が上進する仕組みの糸口がつかめそうだ。

中嶋所長は二十一世紀には、クモ毒は医薬品や農薬などに幅広く応用されているだろう」と

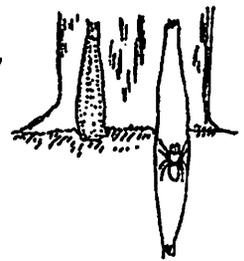
蜘蛛の世界

◆7◆

木の節正や家の隅に蜘蛛が巣を築き居る姿をこのころに見ることがある。これはシジモの幼虫の住居である。その幼虫は蜘蛛の卵から孵り、蜘蛛の巣の中を這回して居る。蜘蛛の巣は蜘蛛の糸で織り成す。蜘蛛の糸は非常に強靱で、蜘蛛の巣は蜘蛛の巣の中心に蜘蛛が居る。蜘蛛の巣は蜘蛛の巣の中心に蜘蛛が居る。蜘蛛の巣は蜘蛛の巣の中心に蜘蛛が居る。

カッフル

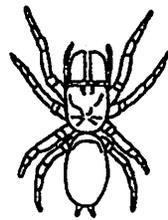
彼の頭は大きいので、これに餌を捕まえるのは簡単である。たはたれもいないので、その餌を捕まえるのは簡単である。たはたれもいないので、その餌を捕まえるのは簡単である。



シジモとその住居

梅雨どきに多い回居

回居は梅雨どきに多い。これは蜘蛛の巣が壊れるからである。蜘蛛の巣が壊れるからである。蜘蛛の巣が壊れるからである。



てみませんか？
（日本蜘蛛学時 県立
山北高校教諭・池田博
明）

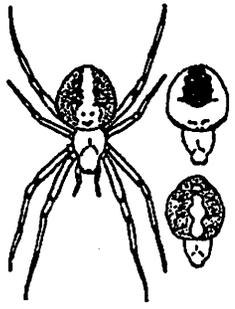
蜘蛛の世界

◆8◆

蜘蛛の世界には多くの種類がある。その中にはヤマシロオニグモ、クモ、シジモ、カッフル、回居、蜘蛛の巣、蜘蛛の糸、蜘蛛の巣の中心に蜘蛛が居る。

カッフル

カッフルは蜘蛛の巣の中心に居る。これは蜘蛛の巣の中心に居る。これは蜘蛛の巣の中心に居る。



ヤマシロオニグモの普通型と雄雌型、背白型

別種と誤認の歴史も

別種と誤認の歴史も。これは蜘蛛の巣の中心に居る。これは蜘蛛の巣の中心に居る。これは蜘蛛の巣の中心に居る。

